

平成31年度 嬉野市立轟小学校 学校評価総括表

1 学校教育目標	<p style="text-align: center;">夢をもち、ふるさとを愛し、生き生きと学ぶ轟つ子の育成 【めざす児童の姿】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 25%;"> <p style="text-align: center;">しっかり学ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び(取組)考える子 ・真剣に学ぶ(取組)子 ・自分の思いを表現する </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 25%;"> <p style="text-align: center;">バランスの良い体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで運動する子 ・チャレンジできる逞しい子 ・心も体も健康な子 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 25%;"> <p style="text-align: center;">いたわる心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある子 ・感動し、感謝する子 ・ルールやマナーを守る子 </div> </div>	<p style="text-align: center;">2 本年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 主体的な学びと豊かな表現力の育成(しっかり学ぶ子プロジェクト) ② 心に響く生徒指導及び特別支援教育の充実(いたわる心プロジェクト) ③ 健康で、逞しい体づくり(バランス体プロジェクト) ④ 地域コミュニティとの連携強化による事業(授業)の促進
-----------------	---	--

達成度
A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

◎ チーム轟として結束力を高める。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	学校経営ビジョンと重点目標の周知	・児童と保護者の認知度を80%以上とする。	・職員会議・全校集会などで十分に時間をとって説明する。 ・学校だより「しいば川」に重点目標などを記載するとともに、PTA総会、学校ホームページなどを通して周知徹底を図る。 ・教育目標を児童・保護者が見やすい場所に掲示する。	A	・学校からの便りを95.4%の保護者が読んでおり、学校経営方針と具体的な取組を関連させて紹介することができた。 ・説明する機会を色々設定し共通理解を深めることができた。	・学校便り「しいば川」や、各プロジェクトからの通信の定期的な発行とともに、学校HPの更新等で、学校行事や、日々の子どもの様子を伝えるようにする。日々の教育活動はブログにアップする。
学校運営	○教職員の資質向上	授業力の向上	・全職員が研究授業を1回以上行う。主体的に課題解決に取り組む児童を育てるために、授業を工夫し、教職員全体で授業力向上の技術を共有する。	・指導力向上を目指すために、グループでの事前検討を行った上で全校研究授業に意欲的に取り組み、講師を招聘して一緒に協議を重ね、研究を深める。 ・研究授業の様子を学校だより「しいば川」や学校ホームページ等で保護者や地域の方に知らせる。 ・11月22日(金)の研究発表会に向けて教職員一丸となって研究を進める。	B	・指導案事前検討に加えて、模擬授業も行った上で研究授業に取り組んだ。11月22日の研究発表会では、100名以上の参観者があった。 ・研究授業の様子を「しいば川」や学校HPで保護者や地域の方に知らせることができた。 ・職員全体で授業の成果と課題を共通理解することができた。	・3年次の研究に向けて、計画的にグループでの事前検討会や模擬授業は来年度も続けて取り組んでいきたい。また、講師を招聘して協議を重ねることで、理論と実践をつなげ研究を深めたい。 ・保護者や地域の方にも研究授業の様子を学校だより「しいば川」や学校HPで知らせるようにしたい。 ・新学習指導要領実施にともない、職員で研修を行い、共通理解のもと教育実践を行っていく。
		児童理解力の向上	・児童の心情を汲み取れる教職員をめざす。	・年2回の「支援を要する児童」に関する研修会や毎週火曜日の職員連絡会などを通して児童理解に努め、児童に寄り添うことのできる教職員をめざす。	B	・「支援を要する児童」の情報交換と研修会を計画的に実施したことで、情報を共有して指導・支援にあたることができた。 ・うれしの特別支援学校の巡回相談を活用したり、QUテスト実施後に職員研修を設け、児童理解や学級経営に生かすことができた。	・児童への対応については、協力して取り組む体制がさらに改善・充実していくよう努める。
学校運営	○教職員の資質向上 ●業務改善・教職員の働き方改革の推進	服務規律の徹底	・教職員としての信頼を保つ。	・学期に2回以上職員会議や職員研修等で、個人情報漏洩防止・飲酒運転撲滅・交通ルールマナー遵守・セクシュアルハラスメント防止などの研修を実施し、教職員としての意識の向上を図る。	A	・具体例をもとに服務規律について考える機会を学期に2回は、設定することができた。 ・職員会議などで資料を配布し意識の向上を図った。	・グループで、自分の考えや思いを交流できるような研修をもち、より主体的に考える場を工夫していく。機会を得て、必要な情報を提供し、規律の徹底を図る。
		心身の健康増進	・明るく健康で颯爽とした姿で子どもに向き合う教職員をめざす。	・人間ドックの数値等にも配慮し、再検査を勧めるなど職員の健康管理に細心の注意を払う。 ・個人の穴を組織全体でカバーする体制を構築する。 ・特に長期休業中は、年休取得についての呼びかけを徹底し、潤沢な充電期間を取得させる。 ・毎週金曜日を定時退勤日に設定し、職員に呼びかける。	B	・夏季休業中の閉庁日や冬季休業中の年休取得推進の取組みにより、まとまった休暇を取ることができた。 ・毎週金曜日は、出勤簿の側に定時退勤を促すボードを置いたり、呼びかけたりしたことで、退勤時間が早くなった。	・休業中のまとまった休暇を取得できるような行事の見直しや呼びかけを行っていく。 ・職員の健康管理には、声をかけたり、再検査等を勧めたりする。

① 主体的な学びと豊かな表現力の育成(しっかり学ぶ子プロジェクト)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ち高める教育活動の推進	・郷土について学ぶ体験活動等を各学年2回以上行う。	・地域の教育資源や人材等を活用した体験活動や講師による講話を実施する。 ・「わたしたちの嬉野市」、「私たちの佐賀県」等を活用した授業に取り組む。	B	・地域コミュニティの方との体験学習や市内の施設見学、講師を招いた体験活動を各学年とも1～2回実施することができた。 ・郷土学習となる「わたしたちの嬉野市」や「私たちの佐賀県」を活用した中学年の社会科学習を行った。	・郷土について学ぶ体験学習を年間に少なくとも2回は、実施できるように、郷土について学ぶ体験学習を年間計画に位置づける。 ・地域コミュニティの方やいろいろな事業を活用して講師を招き、体験活動を計画する。
		指導方法の改善	・各学年の基礎的内容について、80%以上の定着を図る。	・TT、少人数学習を取り入れ、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ・言葉タイム、計算タイム、検定テスト、算数パワーアップタイムを年間計画に沿って実施し、基礎学力の定着を図る。 ・各学年で具体的な操作や体験活動を取り入れ、子どもの学習意欲を高める工夫をする。 ・学力・学習状況調査の結果を生かし、成果の確認と課題解決に向けた取り組みにつなげる。	B	・12月の学習状況調査(算数)において、4年・5年の算数では、県平均を同程度かやや上回る事ができたが、6年では、若干下回った。 ・ことばタイムや計算タイム、算数パワーアップタイムを設定し、各クラスに複数の教員で計画的に指導することで、基礎的な学習内容が定着していった。 ・学力向上対策評価シートをもとに、年5回以上研修会を実施し、児童の指導に生かした。 ・「学びだより」を月に1回発行し、学力向上の取り組み等を知らせて、保護者の協力を仰いだ。	・少しずつ学力の向上が見られるので、今年度の取り組み(TT指導や少人数指導・ことばタイム・計算タイム・算数パワーアップタイム・学力向上の研修会など)を継続していく。
	●学力向上	基本的な学習習慣の定着	・学習に真剣に取り組む姿勢を養う。	・「学校のきまり」を各学級に掲示し、学年に応じた学習用品の準備の仕方やノートの書き方及び家庭学習時間の目安を全職員で共通理解し、指導する。 ・毎月の「くらしの点検週間」の取り組みや宿題チャンピオンなどを「学びだより」で保護者や地域の人に知らせる。	A	・「学習のきまり」をもとに、全職員が共通理解・共通実践したことで、学習習慣の定着が図られた。 ・宿題の提出状況を「学びだより」で知らせることで、学習意欲の継続を図った。	・「くらしの点検週間」の取り組みに個人差が出てきているので、来年度は、点検表の内容や形式を検討していく必要がある。
		◎教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	ICTを活用した授業の推進 ICT機器利用による事務の効率化	・授業でICT提示装置(電子黒板、プロジェクト、デジタルカメラ、パソコン等)を効果的に活用する。 ・校務をデジタル化する。	・ICT提示装置を活用した授業を工夫する。 ・文書受付簿や月行事表、週行事表、校務日誌のデジタル化を進めていく。 ・デジタル教科書の活用を進める。	A	・全学年で電子黒板等を活用した授業ができた。 ・授業における効果的なICT活用の相談、情報交換が職員間でできた。

② 心に響く生徒指導及び特別支援教育の充実(いたわる心プロジェクト)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別支援教育	個に応じた特別支援教育の体制作り確立	・支援を要する児童の実態把握を行い、共通理解のもと、支援にあたる。 ・各種行事等で児童の出番を設定し、認められることで自信を持たせる。	・支援が必要な児童の実態を把握するために「個別の支援シート」を作成しそれをもとに全職員で共通理解し、支援にあたる。 ・支援が必要な児童について毎週火曜日の職員連絡会等で共通理解を図ることで指導に生かしていく。また、学校用ファイルに記録し、引き継ぎ資料、支援会議の資料として活用できるようにする。 ・校内外における発表会等を活用し、経験を積ませ自信を持たせる。	A	・特別な支援を必要とする全児童について「個別の支援シート」を作成し、全職員で共通理解し、指導にあたることができた。 ・毎週火曜日の職員連絡会で特別な支援を必要とする児童の情報共有を行った。 ・校内外の行事において、発表や交流の機会をつくり、経験を積ませ、自信を持たせるように取り組むことができた。	・コミュニケーションや社会性、学習におけるつまずき等、困り感を持っている児童は少なくない。今後も継続して研修会を計画し、教職員のスキルアップを図ったり、支援が必要な子どもの情報交換をする場を設けたりする。
	●心の教育	道徳教育や人権教育、体験活動の充実	・ふれあい道徳、平和集会、人権教育、ボランティア活動、全校集会、ホール集会などを計画的に行う。 ・人権・同和教育の視点に立った学校だより「しいば川」、学級だより等の発行に努め、保護者などへの啓発を図る。 ・茶つみ、田植え等の活動で地域の方々と触れ合いながら体験活動を行う。	・道徳の授業、ふれあい道徳、平和集会、人権集会、ボランティア活動、全校集会、ホール集会等、計画に沿って実施できた。 ・人権集会等の取り組みは、学校だよりやホームページ、学級だよりなどで紹介することができた。	A	・人権集会での嬉野高校の発表を元に、UDについての理解をさらに深めたい。	
	○教育相談	教育相談体制の充実	・支援が必要な児童の実態把握を行い、児童の困り感を共有する。	・6月と11月に児童対象の「心のアンケート」を行う。 ・7月に保護者との個人懇談を行う。 ・毎週火曜日の職員連絡会で、支援が必要な児童の情報交換を行う。 ・教育相談員、スクールカウンセラーとの連携を図る。	A	・児童対象とした心のアンケートを実施することで、児童理解を深めることが出来た。また教育相談週間の実施、保護者の個人面談などを年間行事として位置付けることで機能している。 ・毎週火曜日の職員連絡会での情報共有や教育相談員、SCとの実効性のある連携により個に応じた支援体制が確立している。またSCがクラスの実態に即した心の授業を実施し、児童の困り感や不安を解消できるように努めた。	・SC相談日にカウンセリングを計画的に割り当て、心のケアに努めている。 ・限られた時間の中で、効率的に教育相談員、SC、SSWと情報共有を行えるようにしてい。また、発達段階に即した授業をSCに行ってもらえるように情報共有を密に行い、計画を立てて実施していく。
教育活動	○基本的生活習慣の定着、生徒指導の充実	生徒指導の充実	・あいさつ、返事、後片付けの定着80%以上をめざす。 ・学校のきまりについて、共通理解をし、児童がしっかりと意識するように指導にあたる。	・全校朝会で生活についての講話を毎月1回定期的に行う。 ・保護者や地域と運動させたあいさつ運動を奨励する。 ・生徒指導に関する情報交換を毎週火曜日の職員連絡会で行い、共通理解を図る。 ・くらしの点検表や学級懇談会を通じ、家庭への協力を呼びかける。	A	・全校朝会では、時期や行事に応じた講話ができた。 ・月ごとに生活目標のチャンピオンを学年に一人ずつ選び、表彰した。チャンピオンを目指して頑張る目標ができて、選ばれた児童は、そのあとにもよい手本となった。アンケートでは、「あいさつ、返事、後片付けをしている」との項目で、あてはまると答えた児童は、94%であった。 ・先生方の協力がある、計画的なあいさつ運動できた。	・あいさつ運動に関しては、来年度も引き続きチームで対応できるよう年度当初の計画を行いたい。 ・くらしの点検表について、学級だよりやまちこメール等を使って家庭への協力の呼びかけを行っている。
	●いじめの問題への対応	いじめの早期発見、適切な対応	・児童の心理状況や友達関係の変化に対して、職員の気づきを高める。 ・いじめに類する事案が発生した時、組織的に対応できる体制をつくる。	・7月と12月に「いじめに関する調査」を行う。 ・いじめ問題に関する校内体制を明確にする。 ・いじめが覚知された場合、直ちに校内いじめ対策委員会を開催する。 ・職員の意識を高めるための研修を行う。	A	・具体的目標は、それぞれ達成することができた。また具体的方策については、それぞれ計画通り実施することができた。 ・アンケート調査を生かしながら早期発見・対応ができた。 ・いじめについての伝達講習の内容を校内研修等を通じて報告し、共通理解を図ることができた。	・ケースメソッド等を取り入れた研修を実施しながら、今後も職員のいじめに対する意識を高めていきたい。
学校運営	○安全対策	危機管理体制の整備	・安全安心な学校をめざす。 ・危機管理マニュアルの徹底を図る。	・安全対策の徹底と施設の整備を図る。 ・朝の交通指導、下校時における孫守り隊や地域見守りコーディネーターへの協力要請などを通して、安全指導の徹底を行う。 ・実践に即した各種避難訓練を計画的に行う。 ・作成し直した危機管理マニュアルをもとに水難事故、生活事故、不審者に対応するための職員研修を行う。	B	・安全点検を定期的実施し、校内の危険箇所について早期発見・対応ができた。 ・PTAや地域ボランティア等と連携しながら安全指導が実施できた。	・校区内の早期発見・早期対応のために、集団下校時に職員が一緒に点検する機会を設ける。
					B	・年に2回の避難訓練を実施し、災害への対応を児童を含め全員で確認できた。 ・情報伝達等、適切に行われている。	・年に2回の避難訓練を充実させるために、いろいろな災害を想定して、実施内容の見直しを図る。

③ 健康で、逞しい体づくり(バランス体プロジェクト)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○基本的生活習慣の定着、生徒指導の充実	望ましい生活習慣の定着	・早寝早起き朝ご飯など規則正しい生活をする児童が80%以上をめざす。	・「くらしの点検表」を活用しながら、規則正しい生活習慣の定着に努める。 ・保健だより、学校だより「しいば川」、学級だよりを発行し、保護者への啓発を図る。	A	・早寝早起き朝ご飯など規則正しい生活をする児童が「よくあてはまる」と「大体あてはまる」をあわせると92%に達し、目標を達成した。8%の児童について更なる取組の工夫が必要である。	・今後も保健だより、給食だより等を通して、啓発を行っていく。 ・「くらしの点検表」の週間だけでなくも意識的に規則正しい生活ができるように指導していく。
	●健康、体づくり	健康な体づくり	・健康な体について関心を持ち自ら実践する態度を育てる。 ・天気の良い日は外で遊んだり運動したりする児童が80%以上とする。	・運動会、水泳大会、マラソン大会などの体育的行事を設定し、健康な体づくりをめざす。 ・給食時間に食についての放送指導を行う。 ・給食センターからの給食だよりなどを配布し、食に関する興味を持たせる。 ・歯磨き・立腰・健康観察・衛生検査などを計画的に実施する。 ・「スポーツチャレンジ」へ積極的に参加する。 ・各体育的行事の様子を学校だより「しいば川」で保護者や地域の方に知らせる。 ・週1回以上は、外へ出て遊ぶように声をかける。	A	・手洗い、うがい、歯磨きをしている児童は、「よくあてはまる」と「大体あてはまる」をあわせると95%に達している。 ・週に1回以上外で元気遊んでいる児童が「よくあてはまる」と「大体あてはまる」をあわせると90%に達している。 ・保護者は、「体育的行事等で健康、体力向上につとめているか」という項目において、「よくあてはまる」と「大体あてはまる」をあわせると98%に達した。 ・全校で縦割り班対抗長縄跳び大会を行ったことで、縄跳びをする機会が増えた。 ・スポーツチャレンジの記録を書き込む掲示板を設置したところ、各学年の取り組み回数が増えた。	・今後も衛生検査の取り組みや保健委員会の呼びかけ、給食だより等を等して啓発を行っていく。 ・学級で週に1回「みんな外で遊ぶ」という日を設けて、教室から出て遊ぶ機会を作っていく。 ・「スポーツチャレンジ」へ積極的に参加する。 ・縦割り班活動で継続的に長縄跳びに取り組むようにしていく。

④ 地域コミュニティとの連携強化による事業(授業)の促進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○保護者・地域との連携	学校運営協議会設置とPTA、地域との協力・連携強化	・学校運営協議会設置を通して、保護者、地域との連携を強化していく。 ・授業参観、専門部活動、総会、学年PTAなどにおける出席者の増加をめざす。 ・地域教材(人的・物的)を活用する。 ・小中連携の研修会や中学生との交流を通して、連携を強化していく。	・学校運営協議会を年間3回開催し、教育目標・教育計画の共通理解、共通実践を活性化させる。 ・授業参観や各行事を午後後に設定するなどして、保護者の参観の機会を増やし、参加率70%以上をめざす。 ・PTAの各専門部会や活動に職員も積極的に参加する。 ・地区懇談会などに職員も参加する。 ・授業参観やPTA行事などについての広報活動を強化し、1ヶ月前には広報する。 ・中学生との交流活動や中学校の先生による出前授業を行う。 ・地域教材(人的・物的)を積極的に授業や体験活動に活用していくことで児童との交流を図っていく。	A	・学校運営協議会を年間3回開催し、様々な協働実践を活性化することができた。 ・授業参観の平均参加率は76.5%で、目標の70%を上回ることであった。特に教育の日の参加率は、100%を達成した。 ・PTA活動、地区懇談会など職員も参加して地域連携を図ることができた。 ・社会科・生活科・総合的な学習・家庭科等の学習において、年間活動計画を作成し、地域の人材や教材を活用することができた。	・授業参観の参加率を上げるために、案内を1ヶ月前には配布したり、前日にメール配信をしたりするようになっているので今後も継続する。また、いろいろな保護者の参加しやすい時間帯に対応するために、実施時間や曜日が偏らないように設定する。 ・地域人材・教材の効果的な活用を更に進めるために、実施時期、関係学年、関連団体、連絡先等を明記した人材バンクファイルを作成し、地域コミュニティとの連携を密にしておく。

【共通評価項目】●は必須項目、◎は特定項目、○は独自評価項目

4 総合評価

- 保護者アンケートからは、本校の教育活動に対して概ね良好な評価を受けている。「チーム轟」を合い言葉に、職員が協働して教育活動に取り組んでいる成果が出ているものと思われる。今年度は、開校30周年目の節目の年として、「とどろけ！轟」のキャッチフレーズで教育活動を行ったので、教職員の意識の向上にもなった。
- 「学力向上」の面では、確実に基礎・基本を身につけ、それを活用する力をつけるように日々取り組んでいる。昨年度より、県・市の研究委嘱を受け、算数科の校内研究を進めてきた。11月22日(金)には、研究発表会で公開授業と講演会を行い、研究を確かなものにすることができた。全国や佐賀県の学習状況調査の結果は、学力向上コーディネーターや学力向上支援員を中心に明らかにしながら、課題解決に取り組んできたので、全学年とも前年度よりも数値はやや上がっている。繰り返して確実に定着を図る学習と、自分の思いや考えをお互いに出し合う「学び合い」活動を、日常の授業にしっかり位置づけて、更に継続した取り組みにしていく。
- 生活面では、全体的に落ち着いているが、発達段階によっては、相手意識が希薄で、自分本位の言動が目立つ時期があるので、公共性、社会性を育てる指導に重点を置きたい。高学年になるにつれて、自ら考えて行動する機会を増やし、更に自立した態度や行動がとれるようになっていきたい
- 「特別支援教育及び教育相談体制の充実」については、特別支援コーディネーター、特別支援学級担任、教育相談担当との連携により、「ケース会議」を随時行い、子どもの特性に応じた効果的な支援ができた。また、うれしの特別支援学校の巡回相談やスクールカウンセラーなど外部機関との連携も図られた。毎週、異なる児童についての情報交換の時間を持つことで個々の児童理解を共有できた。
- 学校運営協議会や、轟・大野原地区コミュニティの協力を得て、地域と連携した行事への取り組みや、学校行事、授業、体験活動等のサポーター支援等充実した活動を展開することができている。連携を更に深め、地域人材を活用したり、児童が地域に出て行くような活動を推進したりしていきたい。
- 「業務改善・教職員の働き方改革の推進」については、なかなか難しいものもあるが、毎週金曜日の定時退勤日や長期休業中の年休取得の推進をしていくことで、職員の意識を少しでも変え、勤務時間の適正化に心がけさせる。

5 来年度の課題・改善策

- ・「心の教育」や「いじめ問題への対応」については、本年度「A」評価となったが、「いじめ」や「児童虐待」については、大きな社会問題にもなっているので、今後も早期発見、早期対応に努めていく。地域コミュニティや関係機関との連携を密にしながら、心に響く教育活動を行ってきたい。
- ・今年度「B」評価であった安心安全な学校づくりでは、PTAによる朝の交通指導、下校時の見守り隊、子ども110番の家などとの連携を図りながら、校区内の安全点検を行ってきたい。
- ・職員の心身の健康増進については、引き続き、定時退勤日の確実な実施や長期休業の年休取得推進など、職員の働き方への意識を高めていく。また、面談や日頃の会話などから職員の心身の健康に気づける管理職、職場づくりに努めていきたい。また、来年度の行事精選を行い、年間計画を作成する。